

フレール總會雜感

なにがし

▲例年四月二十一日は幼稚園の創設者にして幼児の父と呼ぶる、フロエベル氏の誕生日として、フレール會にては、特に此日を選んで、毎年總會を開くことに定まされり。

▲本年の總會は、恰も月の第三日曜日、上野隅田の櫻は晚咲の八重のみ残して、既に見る影もなく散り果てたれども、名にし負ふ、博覽會に西より東より南より北より吾もくと集まり來て、人々の心も空なる今日此頃のことゝて、集まる數も如何にやと思はれしに、さすがは、斯道に熱心なる人々の集まりとて、空の程も危ぶまれしにも係はらず、例よりも、多數のうち集はれしぞ、殊に嬉しかりき。

▲開會の時刻午後一時には、既に過半集まりぬ。

殊に今日は例に似ず、幼き子達の數外く見えられしは、會の趣意にも叶ひて、幼児の父と呼ばれし君の紀念には、如何ばかり相應しかりけん。會の始まるまでの間花の如き少女、無邪氣の男兒等の遊園に出で、あるは花壇の間に、あるは小山の上、三々五々、馳け廻はる様の、いかばかり可愛かりしよ。

▲例に由つて、一室に幼児の手になりしものなど陳べあり、あまりの人込によくは見られず。一二の玩具は、一寸面白し目新らしきものなりき。これに付きて思ふは、例年、別に變りたりとも覺えぬ成績品の陳列よりも、會にて新奇なる玩具など集めて、これを展覽に供せられなば、一層趣味多からんか、更に望まば、外國あたりの幼稚園の子供の手になりしものなど、近頃のを集めて、示されたらば、更に益多からん。何れは、かゝることなども、追々計劃せらるゝことなるべし。

▲やがて會は高嶺會長の開會の辭に由りて開か

れ、保姆合唱の歌は、有志の人々に由りて唱はれぬ。歌詞は、前々校長細川男爵の作、曲は奥氏によりて物せられしかと思ふ、いつもながらさすがに感興深く、當日の演説者は、瀬川醫學博士と、此頃歸朝せられし、齊藤教授となりき、瀬川氏は病兒の處置に付きて話さる。確に有益のお話なりしかども、餘りに時間の短かくて、何となく惜しく物足らぬ感のせられしは、吾のみなりしにや、齊藤教授の外國留學中、彼國にて見聞せられし子供の教育に關する話は、今迄度々聞きたりしとは趣異なりて、殊に有益に拜聽せられぬ。

▲演説の次にはオルガン獨奏とありしが、奏者に障り出来たりと見えられざりしは残り惜しかりき。金森氏の獨唱中々巧妙、阿部氏の薩摩琵琶、常陸丸の最後と、今一曲は別れの國歌、感極まりし鼻打ちかむ人々も所々に見受けられぬ。

▲琵琶すみての後庭園に出れば此所には、三所許に、さいやかなる懸け店を設けて、おすし、團子、

菓子なども勧められぬ。腹脹らせつゝ、日頃かけ離れ居る人々と、互に無沙汰の挨拶などし合ふ。

▲三時半には手品の餘興ありとのことにて、幼き子達は殊更ら、そを樂しみ待てり。やがて時は來りぬ。既にして四時と過ぎ、又半も過ぎぬるに手品師といふは未だに來らず、空はますます危ぶなげにかき曇りぬ。餘りの待ち遠しさに、人々はや歸り支度忙はし。幼子達は、さなから失望の姿なり。

▲「チリンチリン アモシモシ アナタハ○○○ 學校デスカ」ハアソードス」アノ私ハ○○○○○ ○學校デスカガネ、アナタノ學校ニ今日同窓會ガアリマスネ」アリマスガ同窓會ヘノ取次ハ煩ニ勝エマセンカラオ斷リシマスヨ」ア、ソードスカ、然シ極簡單ナコトナンデスカラ……其同窓會ノ餘興ニ手品ガアル様デスカ、夫ハモ一濟ンダンデスカ」

「ソリヤ分リマセン」然シ其位ノ一ハ聞イテ吳レタツテヨイデシヨウ、同窓會ハ、アナタノ學校ノ仕

事デシヨウ「何ヲ言フンデス、聞イテクレタツテ宜イデシヨウトハ何デス、同窓會ハ學校ノ仕事デアリマセン」オヤ／＼ソードスカ 學校ヲ使ツテ校長ガ會長 デ ソシテ學校ノ仕事デナインデスカ「エーソードス其事ハ前モオ尋ネデシタカラ、小使ニ聞カセルトイッテオ答シタノデス」ソレデハアナタノ方カラ更ニ知ラセテクレルンデスカ「知ラセテクレルンデスカ？ ナゼソソナ念ヲ押スンデス、知ラセテ下サイト頼ムノナラ知ラセマスカ、チリーン

▲電話ゴシにての議論、さて何事かと聞けば此日府立〇〇〇〇〇〇學校にも、同窓會ありて、手品師は、その餘興を卒へて、三時半に當方へ来る約束なりしを時間過ぎて尙來らねば、幹事の一人、其學校へ電話にて、もはや手品は済みしにや、済みしならば、すぐ當方へ來らるゝ様頼まんとての先方の傳話が、りととの應對にて、結局要領を得ざりしなりといふ聞けば彼の學校の校長なる人は、

殊に温厚の徳高きを以て聞ふるに、さるにても其下にかゝる役人もありけりと、傍なる人々の一同に眉瀨めしも、げに理はり覺えたり。

▲來らん年より望まじきことは、この總會の日を特に、幼稚園の紀念日と定め、なるべく多く會員の幼き君達をも伴うて臨まれんこと之なり、會には又この當日は、これ等の子達の爲めに、愉快なるこの一日を過ごさせんがために、別に一室を設けて、こゝを遊び場とし報告演説等の際には、この室に集めて、あるは遊戲に、あるは玩具に、思ひ／＼の楽しみを取らせて、時々には會場に出で、小さき唱歌の合唱に集まれる人々の興を助けさせて、餘興の折などに、大人も共に打ち群れて打ち興じなば、如何ばかり、趣味多くて楽しみ深からん。かゝる組織の會は、世に少なし、子供數多く待たせらるゝ母君達の、安心して會に臨るゝ様なさんには、かくすること、最も便利なるべし會の本旨にも叶ひて、いと相應しからん。切に望む